

学校関係者評価委員会記録

1 日時 場所 出席者等

2021.2.24 (水) 14:00~16:00 悠久山栄養調理専門学校 401 教室

出席者 松田トミ子さん 佐藤文子さん 野元真善さん
(小村さんは所用のため欠席)
学校側 井上 武田 加藤 川上 松川

2 資料等

事前配布 令和3年度事業計画(案)
当日配布 令和2年度事業計画の現段階評価
平成27年度~の学生募集状況 経年変化 および 収支概要
(事前配布) 直近の学生あて伝達文書
(事後配布) 法人内2校の学生募集状況と収支概要 一覧

3 会の次第

別紙 当日の会要項と説明資料
学校の現状と課題について 井上
学生の様子 武田 松川
各科の取組について 加藤 川上

4 委員の皆様からのご意見より

- どんな学校にしていきたいか、どんな学生になってほしいのかということを教職員が明らかにすること、そしてそれを言語化によって伝達し、共有することが大切である。
- 進路選択に迷っている高校生を入学に導くための方途を、現在の生徒の状況を考えながら柔軟に発想を豊かにして戦略を考えていくことが求められる。
- (国際調理のように)在学生が出身校に学校訪問する取組が考えられるのでは?
→現在、職員が持参している「卒業生からのメッセージ」を高等学校側はとても喜んでいて、このメッセージを学生に運んでもらうといいだろう
- 同窓会のネットワークを活用していくことが大切
→学生の持っているメールアドレスをデータベース化すると、たとえば求人情報や各種研修会案内などをスピーディに送ることができる。
- まずは資金収支の改善、次いで事業収支の改善が求められる。

5 職員より

- 今年は新型コロナウイルスのためにほとんどの行事を中止せざるを得なかった。加えて「スキルアップの時間」がほとんどとることができなかった。
- その中でも調理師科保護者食事会では保護者のみなさんがとても気持ちよく過ごしていかれた。今後もこのような「学生が前面に出て活躍する場」を大切にしていきたい。
- 多くの非常勤講師を依頼している状況だが、「このように学生をしてほしいこと」について自信をもって私たちが伝えられるようであればならない。各科の教育課程全般を構造的に把握し、それぞれの教科の本質を十分理解したうえで、伝えることが必要である。

6 協議で話題となったこと

- この会は「学校」関係者評価委員会であるが、法人内の学校が2つと少なく、法人と学校とは連動している。事務担当者の連絡会を定例化し、教育の効果を損することなく効率的な事務遂行がなされてほしい。
- 現在の「学校から予算要望を提出する」方式を根本的に考え直すほうが妥当
なぜなら、収入総額を勘案せずに支出要望が膨らむ可能性があるから
具体的には以下
収入見込みの総額からそれぞれの学校の支出額上限を設定し、品目ごとの支出上限を会計担当から学校に示す。⇒学校は、その範囲内で経常的支出の予算をたてる。実情に応じて品目同士の流用を許容して、予算要望を出す
同時に、会計担当は金額の大きい管財については中期目標を視野に入れながら予算化する
- この法人では「本部」という考え方自体がもともとなかったし、そのように考えない方がよい。
- 3月の理事会評議員会では
次年度の事業計画 (法人全体+各校)
次年度の予算 (同上) が議題
- 5月の理事会評議員会では
前年度の事業計画の評価 (=自己点検、自己評価) (法人全体+各校)
前年度の決算 (同上)
これらをすべて情報公開にアップする
すると、さまざま行政より求められる計画や評価などが連動しスリムになる。
事業計画とは、教育課程の大綱の、そのまたエッセンスである。
- 長岡美容の学校関係者評価委員会とこの会の内容が共有されることが必要